

天理市地域公共交通網形成計画の目標達成状況

基本方針(1) 市民の暮らしを支える、鉄道駅を中心とした公共交通ネットワークの形成

【目標1-1】公共交通の利便性に対する不満度合いの軽減	
評価指標	各交通モードに対する満足度（不満回答の割合の低下）
目標の設定	市民アンケート調査結果における、路線バス、コミュニティバス「いちよう号」西部線・苜原線、デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」のそれぞれに対する満足度評価の「不満（「やや不満」と「不満」の合計）」の構成比（不明・無回答を除く）を、現況値よりも低くすること。
計測方法	計画期間の最終年に、市が市民アンケート調査や各交通モードの利用者アンケート調査を実施して指標値をとりまとめる。 集計に際し、「不明・無回答」は母数から除外。
数値目標	現況値
	目標値
達成状況	実績値
	評価

【目標 1－2】地域内公共交通の利用者数の維持		
評価指標	地域内公共交通（コミュニティバス「いちょう号」及びデマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」）の利用者数	
目標の設定	人口減少が見込まれる中、施策の展開等により利用者数を現在の水準で維持する。	
計測方法	毎年、交通事業者からデータ提供を受け、整理する。	
数値目標	現況値	地域内交通の総利用者数：19,622人／年（2017年） （※各交通事業者及び天理市データより）
	目標値	地域内交通の総利用者数：19,700人／年
達成状況	実績値	地域内交通の総利用者数：27,520人／年（2021年）
	評価	<p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス「いちょう号」西部線：13,683人（対2017年比1.04） ・コミュニティバス「いちょう号」東部線：9,487人（対2017年比4.12） ・デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」：4,350人（対2017年比1.06） <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年以降公共交通機関の利用者数が軒並み減少する中において、本市の地域内交通の利用者数は増加傾向。特にいちょう号東部線は、路線再編に伴うダイヤ見直し、増発により利用者増の影響が考えられる（ただし、再編前の路線バスから再編後の東部線への転換もこの中に含まれるため、再編後の純増分での評価も必要）。</p>

【目標 1－3】地域内公共交通の収支率の改善		
評価指標	コミュニティバス「いちょう号」及びデマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」の収支率	
目標の設定	<p>コミュニティバス「いちょう号」及びデマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」の運行に係る収支率を、運行の効率化や利用促進に繋がる施策・取り組みにより、現状の水準維持もしくは向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス「いちょう号」西部線：現況より向上 ・コミュニティバス「いちょう号」苜原線：現状の水準維持 ・デマンド型乗合タクシー：現状の水準維持 	
計測方法	毎年、市が集計、整理する。	
数値目標	現況値	<p>コミュニティバス「いちょう号」西部線：7.5%（2017年）</p> <p>コミュニティバス「いちょう号」苜原線：2.2%（2017年）</p> <p>デマンド型乗合タクシー：6.9%（2017年・全エリア計）</p> <p>（※天理市データより）</p>
	目標値	<p>コミュニティバス「いちょう号」西部線：10%（向上）</p> <p>コミュニティバス「いちょう号」苜原線：3%（現状の水準維持）</p> <p>デマンド型乗合タクシー：7%（現状の水準維持）</p>
達成状況	実績値	<p>コミュニティバス「いちょう号」西部線：6.5%（2021年）</p> <p>コミュニティバス「いちょう号」東部線：7.0%（2021年）</p> <p>デマンド型乗合タクシー：6.8%（2021年・全エリア計）</p> <p>（※天理市データより）</p>

	評価	<p>「いちょう号西部線」は、2018年と運行本数が変わらず利用者は微増しているが、収支率は低下。</p> <p>「いちょう号東部線」は、2018年より運行本数の増加に伴い費用も増えていると考えられるが利用者が大幅に増加しており、収支率は向上し目標値を上回る。</p> <p>「ぎんなん号」は、2018年以降運行エリアが再編され利用者は微増しているが、収支率は低下。</p>
【目標1-4】公共交通に対する市の負担額の抑制		
評価指標	路線バス及び地域内公共交通に対する市の負担額	
目標の設定	路線バス及び地域内公共交通の運行に対して毎年市が支出している負担額の総額を、サービス水準を維持しつつ効率化や利用促進に繋がる施策・取り組みを行うことにより、現状の水準に維持する。	
計測方法	毎年、市が集計、整理する。	
数値目標	現況値	地域内公共交通（路線バス、コミュニティバス「いちょう号」、デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」）に係る総負担額：5,648万円（2017年）
	目標値	地域内公共交通（路線バス、コミュニティバス「いちょう号」、デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」）に係る総負担額：5,900万円（2023年） ※今後の伸びが、2016～2017年にかけての年間伸び率（1.05倍）で推移した場合に計画最終年に想定される額。
達成状況	実績値	地域内公共交通（路線バス、コミュニティバス「いちょう号」、デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」）に係る総負担額：5,239万円（2021年）
	評価	2023年の目標額は2018年より微増に抑えることであったが、2021年時点で実績額は2018年より減少しており目標を達成。

基本方針(2) 交通不便地域や高齢者等の移動手手段の確保

【目標2-1】地域内公共交通の利用者数の維持		
評価指標	コミュニティバス「いちょう号」 荳原線及びデマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」 東部地区の利用者数	
目標の設定	公共交通施策の展開により、中山間地域のコミュニティバス「いちょう号」 荳原線及びデマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」の利用者数を維持する。または利用者の減少率が人口の減少率を下回らないようにする。	
計測方法	毎年、交通事業者からデータ提供を受け、整理する。	
数値目標	現況値	コミュニティバス「いちょう号」 荳原線：2,305人/年（2017年） デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」 東部エリア：1,017人/年（2017年）
	目標値	コミュニティバス「いちょう号」 荳原線：2,350人/年 デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」 東部エリア：1,050人/年
達成状況	実績値	コミュニティバス「いちょう号」 東部線：9,487人/年（2021年） デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」 東エリア+高原エリア：952人/年（2021年）
	評価	「いちょう号」 東部線の利用者は、2018年の荳原線より4倍以上増加。 「ぎんなん号」 東部エリアは、東エリアと高原エリアに分割され、両エリアを合わせた利用者数は2018年より減少し目標値に到達せず。

【目標2-2】高齢者の運転免許証返納の促進		
評価指標	運転免許証返納者数	
目標の設定	公共交通の利便性の向上を図るとともに、免許返納者に対する本市独自のインセンティブ施策を展開することにより、安心して運転免許を返納する高齢者の増加を図る。	
計測方法	毎年、市が集計。または警察よりデータ提供を受け整理する。	
数値目標	現況値	645人/5年（※2014～2018年。ただし2018年は11月末までの暫定値）
	目標値	1,500人/5年（※計画期間内における合計人数）
達成状況	実績値	※天理市に要確認
	評価	

基本方針(3) 観光客にとって利用しやすい公共交通の充実

【目標3-1】来訪者の公共交通利用の促進		
評価指標	主要観光地における公共交通を利用した来訪者の割合	
目標の設定	観光目的の来訪者にも利用しやすい公共交通の整備や来訪者へのPR等により、公共交通を利用して本市の観光地へ来訪及び周遊する人を増やす。	
計測方法	計画最終年に、石上神宮及び天理市トレイルセンターにおいて来訪者ヒアリング調査を実施し、公共交通による来訪者及びマイカーによる来訪者の割合を集計・整理する。	
数値目標	現況値	[公共交通による来訪者]石上神宮：55.1% トレイルセンター：25.0% (観光客アンケートより、各観光地の最寄り駅またはバス停から徒歩で来た人、山の辺の道を徒歩で来た人、タクシーで来た人の割合) [マイカーによる来訪者]石上神宮：41.7% トレイルセンター：60.0% (同じく、マイカーで来た人の割合)
	目標値	[公共交通による来訪者] 石上神宮：60%トレイルセンター：30% [マイカーによる来訪者] 石上神宮：35% トレイルセンター：55% ※なら歴史芸術文化村は2018年当時未開業
達成状況	実績値	[公共交通による来訪者] 石上神宮：37.6% トレイルセンター：44.6% [マイカーによる来訪者] 石上神宮：51.9% トレイルセンター：51.8% <参考：なら歴史芸術文化村への来訪者の交通手段> 公共交通機関：13.1% マイカー：65.5% (※2023年5月観光地来訪者アンケート調査結果より)
	評価	石上神宮は、2018年よりも公共交通による来訪の割合はむしろ減少しマイカーによる来訪は増加し、目標を達成できず。一方トレイルセンターは、2018年よりも公共交通による来訪の割合は増加、マイカーによる来訪は減少しており目標を達成。 <参考>観光地来訪者アンケート結果によると、公共交通非利用者の中に「公共交通を利用したいが不便だから」という観光地への公共交通の潜在的需要を意味する回答が3～4割存在。

基本方針(4) 幅広い連携による移動手段の維持・確保と利用促進施策の展開

【目標4-1】地域内公共交通の利用者数の維持		
評価指標	地域内公共交通（コミュニティバス「いちょう号」及びデマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」）の利用者数（※目標1-2の再掲）	
目標の設定	人口減少が見込まれる中、施策の展開等により利用者数を現在の水準で維持する。	
計測方法	毎年、交通事業者からデータ提供を受け、整理する。	
数値目標	現況値	地域内交通の総利用者数：19,622人／年（2017年） （※各交通事業者及び天理市データより）
	目標値	地域内交通の総利用者数：19,700人／年
達成状況	実績値	地域内交通の総利用者数：27,520人／年（2021年） （※各交通事業者及び天理市データより）
	評価	【内訳】 新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年以降公共交通機関の利用者数が軒並み減少する中であって、本市の地域内交通の利用者数は増加傾向。特にいちょう号東部線は、路線再編に伴うダイヤ見直し、増発の影響、及び再編前の路線バス利用者のコミバス転換の影響が考えられる。

【目標4-2】関係主体による積極的な利用促進活動の推進		
評価指標	市民を対象とした利用促進活動の実施回数	
目標の設定	小学生、高齢者など様々な属性の市民を対象として、公共交通の利用促進を目的とした活動を、定期的・継続的に実施する。	
計測方法	毎年、市が実績データを収集・整理する。	
数値目標	現況値	公共交通をPRする機会の開催回数（バスの乗り方教室など）：未開催 市広報紙等への公共交通関連情報の提供回数（免許返納の呼びかけ等） ：3回／3年（2015～2017年度）
	目標値	公共交通をPRする機会の開催回数：1回以上／年 市広報紙等への公共交通関連情報の提供回数：4回以上／年
達成状況	実績値	※天理市に要確認
	評価	